

スクラム



✿ 消化器内科ニュース ✿

本年度から、大和医師に代わりに須田医師が着任しました。今年度は大石、須田、清家の3人体制で消化器内科の診療、検査を行っていきます。これまで通り、患者さんの病態に応じたやさしく丁寧な治療を心がけ、消化器内科の診療、検査を行っていきます。



消化器内科長 大石 尚毅

昨年より、超音波内視鏡下穿刺吸引術を行える超音波内視鏡が導入されました。これにより消化管近傍の組織である膵臓やリンパ節の精査が行えるようになりました。膵腫瘍、膵嚢胞性疾患、リンパ節腫脹、胃粘膜下腫瘍など、胃壁を通してのより精細な評価が可能となりました。

現在、我が国の癌による死亡者数は年間30万人を超え、死亡原因の第一位を占めるようになりました。最近では診断と治療の進歩により、一部の癌では早期発見、そして早期治療が可能となってきました。胃癌、大腸癌は癌になる人が多く、またその癌による死亡が多い癌です。そして早期発見によりその癌で死亡する可能性を減少させることができます。胃癌の早期発見に胃内視鏡検査が有効とされ、大腸癌の早期発見には便潜血検査、下部消化管内視鏡検査が有効とされています。私たちも、これまで同様、消化管内視鏡検査を通して、地域の方々の癌診療に貢献していきたいと考えております。当院では、上部消化管内視鏡検査では全例拡大内視鏡での観察が可能な体制を整えております。また、下部消化管内視鏡検査では、炭酸ガスを用いた検査を行い、患者さんの負担軽減に努めております。

これまで早期発見が困難であった膵臓癌に対しても、糖尿病歴のある方、家族歴のある方など高リスクの方を定期的に経過観察することにより、徐々に早期発見が可能となってきています。ここで活躍するのが超音波内視鏡検査です。当院でも昨年度より超音波内視鏡検査、超音波内視鏡下穿刺吸引術をできる体制を整えております。今後は膵癌に対しても積極的に早期発見に貢献したいと考えております。

今後ご紹介のほどよろしくお願いいたします。

❀ 当院の糖尿病合併症への取り組み ❀



内分泌・糖尿病内科医長 宇野 将文

糖尿病患者さんの生活の質に密接にかかわってくる要素として、種々の合併症があります。よく知られた網膜症、腎症、神経障害といった三大合併症の他にも、脳梗塞、狭心症、閉塞性動脈硬化症といった大血管障害や、多発神経障害、微小循環障害、外傷、感染症などを背景とした糖尿病足病変など、全身にわたり多様な病態が出現し、患者さん個々人によってみられる症状、進行度合いなどは異なります。

多くの合併症は無症状で経過し、自覚症状が出現したときはかなり進行した状態に至ってしまっていることが珍しくなく、また、一度進行してしまうとまったく正常な状態までの改善は難しい不可逆性を有していることも特徴です。そのため、自覚症状がない時からの定期的な検査による合併症の早期発見、治療が重要になってきます。

合併症は全身に起こりうるため、必要な検査も多岐にわたりますが、当院では三大合併症の検査をはじめとして、大血管の評価として頸動脈エコーやABI、さらに従来のトレッドミル試験に加えて、冠動脈CTで視覚的に冠動脈の狭窄、石灰化を評価することが可能となっています。また、足病変は重症化すると潰瘍、壊疽に至るため、素足をよく観察することで早期の白癬、爪の変形、外傷などを見逃さないことが重要です。当院では専門スタッフによるフットケア外来を開設しており、状態に応じて皮膚科、循環器内科などとも連携を取り適切な対応を行っていきたいと考えています。

入院での合併症検査は患者さんの状態、検査スケジュールにもよりますが、おおむね3-5日間程度の入院で必要な検査を一通り行うことが可能で、蓄尿での尿蛋白定量や、1日血糖測定など、入院でないと難しい検査も併せて行うことができます。また、入院中に実際に糖尿病食を食べていただき、管理栄養士からの栄養指導を通じて、患者さん御本人の血糖改善の意欲向上にもつながることもあると思います。

また、複数回の通院が必要となりますが、外来での検査、指導も可能です。検査内容、日程などに関しては患者さんのご都合、ご希望に応じての調整も可能ですので、お気軽に地域連携室までご相談ください。

❁ 外科のご紹介 ❁

外科長 廣瀬 宏一



当科では、主に消化器、乳腺疾患を扱っています。関連する、消化器内科、麻酔科、病理科と連携し、標準的かつ最適な治療方針を提案し、術後の疼痛管理にも留意しています。

昨今の危機的な外科医不足のあおりを受け、2018年10月より当院外科定数が削減され、現在2人体制となっております。手術の安全性を損なわないよう、腹腔鏡下胃切除術などを施行する場合は、医局より応援医師の派遣を受け、万全の態勢で臨んでおります。開腹手術などは、トンプソン鉤などの特殊機械および各種エネルギーデバイスを使用し、安全性に十分留意しております。

マンパワー不足のため、手術中などの場合、登録医の先生方からの要望に対応できない場合があるかもしれません。なにとぞご容赦くださいますよう、お願い申し上げます。

6/17に開放病床運営委員会を開催しました

当院開放病床の現状等に対して、また開放型病院共同指導料と退院時共同指導料が重複算定できないという矛盾点についても、委員のみなさまから貴重なご意見をいただきました。今後の運営に役立てていきたいと思っております。

開放病床入院患者さまに対するアンケート結果につきましては、今後のスクラムに掲載予定です。



✿ 光線療法について ✿

皮膚科長 森 俊典



光線療法は昔から様々な皮膚疾患の治療に用いられてきましたが、長波長紫外線（UVA）には前処置が必要で煩雑であったり、中波長紫外線（UVB）は照射エネルギーの調節が難しく熱傷を生ずることもありました。ナローバンドUVB療法は中波長紫外線（290 - 320 nm）のうち311 nmをピークとする狭い波長を照射することで上記の欠点を補って治療効果を上げる方法です。尋常性乾癬の治療に用いますが、掻痒を抑える効果があるので、アトピー性皮膚炎などの慢性湿疹や皮膚掻痒症の患者さんにも行われています。加齢に伴う老人性掻痒症や肝臓病、腎臓病、糖尿病など基礎疾患に伴う掻痒症にも効果があります。照射器の下の診察台で着衣を取り横になって頂き体の前面と後面に各々数分間照射します。

当科では2年前からナローバンドUVB療法を行っており、週1回の照射で痒みが治まってくると掻き傷が減り、内服薬や外用剤の使用も抑えられるようになります。慢性の痒みでお困りの方は皮膚科でご相談ください。



今年も、ボランティア団体『四ツ葉の会』のみなさんが、1階ホールに素敵な七夕飾りを作成してくださいました。

見上げるほどの大きな笹に、願いが込められた色とりどりの短冊が揺れ、とても癒されます。

四ツ葉の会のみなさま、ありがとうございました。

金沢市立病院 地域連携室

TEL:245-2626（直通） FAX:245-2693（直通）

お問い合わせ・ご予約などお気軽にご連絡ください。

<http://kanazawa-municipal-hosp.com/>